最終更新日：2022年8月16日

## 英語教育講座　佐藤 臨太郎 教授

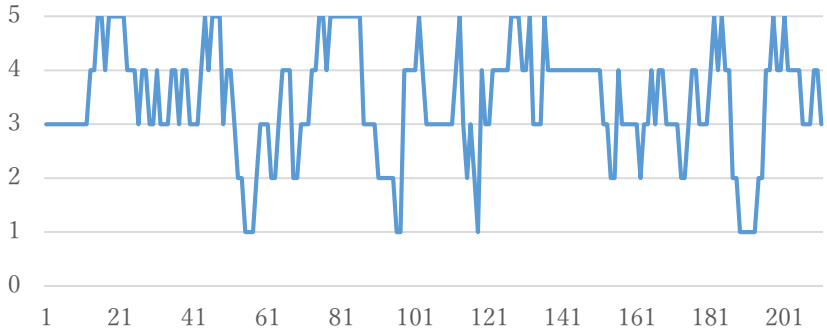
# 「主体的に対話しようとする意欲」に関する研究

**キーワード　会話意欲/　外国語学習環境/　英語での授業**

### どのような研究をなぜ行っているか

「機会があれば他者とコミュニケーションしたいという意欲」、「主体的に対話しようとする意欲」をWillingness to communicate（WTC）といいます。英語の授業が数少ない（あるいは唯一の）英語を話す場である日本のような外国語として英語を学ぶ環境において、教室における生徒のWTCは非常に重要です。言うまでもなく、英語を話すこと、英語でコミュニケーションをすることが言語習得において不可欠だからです。

WTCには特質としてのWTC（trait WTC）と、場に依存するWTC（state WTC）があります。前者は、性格が内気であるとか外交的であるとかいうように元々持っている特質で、ある程度安定しています。それでも、そのWTCが場の状況によって波のように変動します。それが、後者の場に依存するWTCです。以下は筆者の研究（Sato,2020）で記録されたある大学生の発話ごとのWTCの動きです。録画したコミュニケーション活動を見ながら学生自身でWTCの高さを採点した結果をグラフにしたものです。縦軸がWTCの高さ、横軸は発話を示しています。このようなWTCの変動の要因について研究しています。




### 研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

以下について示唆を与えることが出来る

- 教師のどのようなフィードバックが学習者のWTCの変動に影響を与えるかについて
- 授業でのどのような活動が学習者のWTCの変動に影響を与えるかについて
- 授業での使用言語（英語or日本語）の学習者のWTCへの影響について

### これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- 中部地区英語教育学会運営委員
- 関西英語教育学会紀要編集委員
- 全国英語教育学会査読委員
- 奈良教育大学英語教育研究会会長
- 日本言語テスト学会広報委員
- 全国英語教育学会紀要編集委員会副委員長
- 奈良県、三重県、兵庫県、大阪府、香川県、滋賀県教育委員会主催教員研修講師等

奈良教育大学　教育研究支援課 学術研究推進係 0742-27-9135　g-kenkyu@nara-edu.ac.jp